

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 エコ・エコ

代表者：代表 加倉井憲一

URL：<http://members3.icom.home.ne.jp/kaerunomaru/>

1. 活動が必要とされた状況

保全による生きものの保護や自然植生の再生、自然を理解し体感する観察会、視野を広げるための環境講演会等は、私たちの活動の柱です。これらの活動を行うために助成を必要としました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

講演会 4月13日「身近な環境保護」ドイツの環境教育を体験してみよう

湿地保全 月2回 第2木曜、第3金曜 他に臨時保全

観察会 見沼自然公園にて 月1回 第4日曜日

学校教育 チャレンジスクール支援 不定期

イベント ステラタウンでクラフトと昔遊び、その他

不在地主森手入 不定期 クラフト展示 11月

ボランティア延べ人数 439人 一般延べ人数約 839（内子ども 453）名 計 1278人(2015年2月23日現在)



3. 活動の成果

- ・ 環境講演会を実施したことで、楽しんで自然を理解する方法を学び視野が広がりました。
- ・ 湿地保全では、行政の理解を得られ貴重種を保護することが出来ました。今年もアカガエルの卵塊を確認しました。
- ・ 自然の仕組みを理解してもらうために、観察会を月1回開催しました。四季を通して自然を体感することで、多くの子どもの笑顔と若い保護者の方々の理解を得られました。
- ・ イベントでは、日本語を学んでいる親子と協働して、湿地のクズ抜き作業を行いました。抜いたクズは、近くにある大崎子供動物園の動物たちが食べているところまでを体験し、循環型保全の道筋を作りました。また、障害を持っている方々に、自然散策やクラフトを作成する機会を提供しました。
- ・ 水路の外来種除去を行ったところ例年になく、アズマヒキガエルの産卵数が多くなりました。
- ・ 喫茶店の壁面等を借りて自然を知ってもらう掲示しました。また、竹材で作ったかごや自然素材を活かした作品を展示できました。見沼の四季の写真を展示、自然理解への提示ができました。



4. 今後に残された課題

- ①環境教育、自然観察会を今後とも実施し、真の自然保護の理解者を増やす計画です。
- ②見沼原形保全区間にふさわしい場所に、少しずつ近づけるよう努力してまいります。
- ③他の施設や団体とコラボして活動の幅と奥行きを出していきたいです。
- ④自然というキーワードで多文化、多世代交流を行いたいです。

